

源氏物語 異聞 『夕顔殺人事件』

源氏物語に於ける「夕顔の死」は、古来から謎だと言われて
います。文面からは「五条の御息所」の生き霊が取り付いて
結果的に命を奪ったと見られている。

だが、はたして 五条の御息所がそのような人物か…

車争ひでの対応、源氏が明石に流されても手紙のやり取り

都に戻ってからも会っている最終的に自分の子供の面倒も

源氏に託している、確かに虚勢と自尊心の強さがあるが…

では、真犯人は？夕顔 最後の場面を思い出してください。

源氏が宿直の人間を起こしに行き詰りが眠りかけている時に

夕顔の傍には誰が居たか？ それは「ち近」ただ一人

衰弱している夕顔を殺害するのは、容易くはなかったか？

動機は？これから先、裕福に暮らして行くのに病弱な夕顔で

は、それなりの職方が手に入るかどうか？分からない。だが、

「惟光」にややのかされての犯行だと思われる。

では、惟光は誰に頼まれたのか？ 「薬のよ」が黒幕と考えら

れないか 兄である顔の中將との間にお供をもうけてきました

自分の旦那の源氏まで…もうプライドが許されなれと思う。

まずは、惟光が口中に薬を（睡眠薬入り）を持ち込み宿直の
人間を眠らせ、ち近は護摩を焚いてお供で幻覚を見せて夕顔
を脅し源氏に動搖を起こさせる（お供の実はずし料の多年草
で果実の乳液が刀へん・モルヒネとして幻覚作用を起こさせる。
実用されたのは室町時代と言われているが、この時代にあった
としても不思議ではない）問題は、この後の惟光の手配である。
夕顔の死体の処理 タイミング良く戻ってきた惟光が昔から
の知り合いである東山の尼まで手帳はよく供養を請ませ
ち近は五条の家には戻らず源氏の二条の院で世話になっている
。本文に、ち近と惟光の関係は書かれていないが共犯として
男女の関係があったと思います。
蛇足ですが、薬のよも五条の御息所の怨霊に殺されたかのよ
うに書かれています。怨霊がいたとすれば、それは五条の御
息所ではなく、悲しい終わりを迎えた夕顔であったと云えま
すね。ただ、現実は産後のひだちが悪く亡くなったのではない
でしょうか？